



---

第一回『関西留学生合同企業説明会』

第四回『産学国際交流懇親会』

開催レポート

---

開催日：2017年11月18日

主催：関西留学生国際交流支援連絡会

代表幹事 千田 忠司



2017年11月22日

文責：連絡会事務局 村井 広宣

Report No.004

## 当会初となる留学生向けの合同企業説明会を開催

11月18日（土）、当会初となる『関西留学生合同企業説明会』および『第四回産学国際交流懇親会』を難波御堂筋ホールにて開催した。当日はあいにくの雨の中、延べ約200名の方々のご来場された。当会の設立目的の一つである「関西での留学生の雇用創出および受入企業の拡大」に向け、会員企業が中心となり準備を進めてきた。留学生は日本国内に約20万人いるが、そのうち就職できるのは約半数にとどまり、卒業後に日本での就職を希望する多くの留学生は帰国せざるを得ない状況となっている。また、内定が決まった留学生が、「在留資格の変更」手続きに戸惑っているという声も多く聞く。こうした状況を改善するため、当会は留学生の採用に積極的な企業で、なおかつ正社員で採用した場合は在留資格の変更手続きを会社で行う企業のみを集めた合同企業説明会を開催する運びとなった。

今回の合同企業説明会のターゲットとなる留学生は、19年卒生だけではなく、来年3月に卒業を控えた18年卒生も対象であったため、留学生も積極的に企業ブースを訪問し説明を受ける様子が印象的であった。

また、各種講演者を招いてのセミナーも合同企業説明会を同時開催した。

17時からは『第四回産学国際交流懇親会』を開催した。当会会員である、千房株式会社、三和実業株式会社、大起水産株式会社にご協力いただき、ケータリングが振る舞われた。

## 『関西留学生合同企業説明会』には留学生の採用に積極的な26社が集合！

### 【オープニングセレモニー】

出展企業様向けに説明も兼ねたオープニングセレモニーを行った。幹事6名のご紹介の後、千田代表幹事が「昨年2月に当会を立ち上げて以来の念願であった合同企業説明会を、みなさまのお力添えで開催することができたこと」を感謝した。また、昨今の日本の少子化や国際社会での日本の立ち位置などの状況踏まえ、各企業が置かれている状況を再度問題提起した。関西での留学生の就職状況について述べ、当会は関産官学一体となって留学生を受け入れていくと述べた。関西には多くの優良企業があり、それらの企業が留学生を受け入れることで、留学生には日本人の心を持って帰ってほしいと期待を語った。

企業の方々へのお願いとして、取っ手あげるといふよりも、パートナーとして活躍していただくという考え方で採用を進めてほしいと述べた。



続いて、全体のスケジュール、ブースの運営について、事務局より説明があった。その後、各出展企業はブースの準備を行った。

## 【合同企業説明会】

会場入り口には、受付開始時間前に多くの留学生が集まったため、前倒しで受付を行った。産経新聞社様のご協力にて、事前申込をした先着 100 名の学生へは、1000 円分がチャージされた WAON カードがプレゼントされた。受付には、英語、中国語、韓国語、ベトナム語で対応可能な留学生アルバイトを配置し、スムーズな受付対応が出来る体制を取った。

事前に訪問する企業を決めていなかった留学生には、事務局スタッフが中心となり声をかけ、ブースへの誘導を行った。

会場では、企業訪問チケット等当日お渡ししたものの説明や同時開催のセミナーの案内などを英語と中国語でアナウンスした。



当日配られた出展企業情報が載ったパンフレットには、仕事内容、勤務地、雇用形態、必要な言語などが記載されており、留学生はそれらを見ながら目当ての企業を探していた。合同企業説明会エリアに案内スタッフを配置し、どの企業ブースに行けばよいのか迷っている学生に声をかけ、誘導を行った。

以下、出展企業様よりコメントをいただいた。

「アルバイトをメインに募集しているので、まだ日本語があまり上手ではない低学年の学生も受け入れ、働きながら日本語を覚えていってもらえる環境を引き続き整えていきたい。」

「言葉の問題があり、詳しく立ち入ったお話が出来なかった。これからは、こちらの見せ方を工夫し、企業の説明をしなければいけないという課題の発見があった。」





また、今後の活動の参考になる意見もいただいた。

「大学院生が就活の流れに乗り遅れている感じかした。今後K-FISで院生向けの就活セミナーを試してみたらいいと思う。」

「WeChatも活用し広報を行えば、より多くの集客が見込めると思う。」

### 【入国管理局セミナー】

セミナー冒頭、千田代表幹事および衆議院議員 大西宏幸氏よりご挨拶いただいた。

千田代表幹事は、「日本の商売は信用・信頼が一番であり、日本の企業に勤めるのであれば『時間に正確であれ』とアドバイスをされた。「必ず約束の時間前に行く、時間を守る事が大事であり、時間を有効に使うことを守れば、日本人とパートナーとなって一緒に仕事をしていける」と参加している留学生にエールを送った。

また、大西議員は、「将来、大阪で起業したり、大阪の企業で役員になったり、または母国に帰って働くこともあるかと思いますが、大阪に来てよかったなという気持ちをもって、今後みなさんが成長してもらえたら、日本の国益になります。」と、国政も留学生を支援していく旨を述べた。

ご挨拶には、英語と中国語の通訳が即応し、会場の留学生にも内容が理解できるよう配慮された。

当日の急な対応にも関わらず通訳を務めたお二人の日本語の理解力と、それを適切に要約し訳すかに一同感心した様子だった。



英語と中国語の通訳の様子

入国管理局セミナーへは、大阪入国管理局 就労・永住審査部門統括審査官の宮村和也様にご講演いただいた。講演内容は、主に留学生が卒業後就職する際に手続きが必要な「在留資格の変更」についてであった。在留資格の変更申請時に、入国管理局が見ているポイントが事例を交えて説明されたため、今後申請する際の参考になる内容であった。

日本では、高度な専門的技術・知識を持っている外国人は就労が認められているが、昨今の少子高齢化問題があり、国が政策を考えている。ただし、外国人労働者が増えることに伴う問題（例えば、医療機関での言葉の問題、子どもの教育現場での文化の違いに伴う問題など）にきちんと対応する必要があると述べられた。



最後に、在留資格の変更手続きは早めに申請するよう、留学生の方々にアドバイスがあった。卒業して申請をすると、4月の入社に間に合わないため、3月の卒業が決まっており、4月入社の内定をもらっている人は、早めに申請するよう呼びかけた。大阪入国管理局では12月1日に留学から就労への在留資格変更申請の受付を開始している。

### 【働く元留学生のトークショー】

セミナーとセミナーの合間に、働く元留学生のトークショーが急遽行われ、会場で待っていた参加者を楽しませた。

現在、リバー産業株式会社で営業として活躍されている沙漠（シャモ）氏にMCの安田ゆき氏が就活中に頑張ったことや現在働いてみての感想などをテンポよくインタビューした。沙氏は営業成績第一で、同僚にも恵まれ日本での生活を満喫していると語った。



### 【企業×留学生 就活事例ディスカッション】

ディスカッションに先立ち、参議院議員石川博崇氏より参加者にご挨拶いただいた。

石川氏は現在、法務委員会の委員長を務めており、法務省の所管である入国管理局の実情を法務委員会で審議していきたいと述べた。また、外務省での勤務経歴を活かし、短期滞在のビザの発給要件の緩和を進め、外国人観光客が関西でも増えている。この活力のなか、人手不足に悩む企業は留学生の力を求めていると留学生に期待を示した。

### パネリストご紹介

右より 株式会社三共製作所

代表取締役 松本輝雅様

株式会社ホテルマネジメントジャパン

総務人事課マネージャー 山本秀子様

株式会社ヒロフードサービス

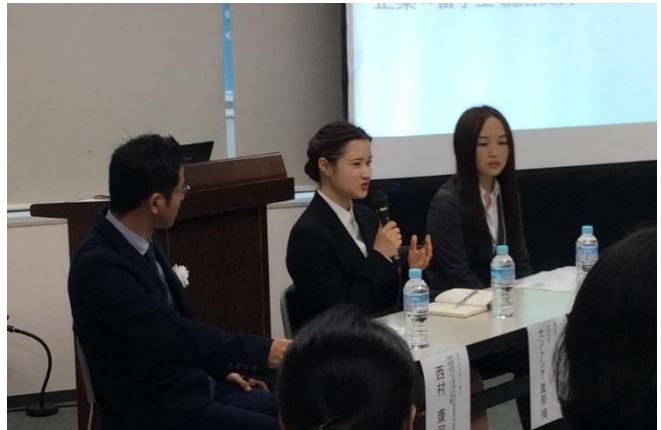
代表取締役社長 井上泰弘様



右より 上新電機株式会社  
党旭様（元留学生）

大阪大学  
セントシア真奈様

学校法人エール学園キャリア支援室  
室長 西村康司様



ディスカッションは、以下 4 つのテーマに沿って進められた。

- ①各企業の紹介と今後の展望、どのような留学生を採用しているのか
- ②各企業の留学生採用と留学生の就活の現状について
- ③在留資格について
- ④インターンシップについて

ディスカッション全体を通して各社共通していたのは、人手不足のために留学生を採用しているのではなく、留学生だからできる仕事を任せたいと思い採用活動をしているということだった。採用においては、留学生の学ぶ積極性や仕事に対する姿勢を重視しているようだ。また、外国人を雇用することで、日本人社員にとっても良い影響があるというコメントがあった。



元留学生と現在就職活動中の学生からは、インターンシップの重要性が強調された。インターンシップに参加するメリットとして、インターンシップで様々な業界に行くことができること、インターンシップの選考が就職活動の選考の予行演習になること、インターンシップ先で採用につながるなどがあるなどが挙げられた。

ファシリテーターを務めた西村氏は、学校関係者として留学生の就職状況を見ている立場から、「インターンシップの経験が自分のやりたいことの発見につながる」と、インターンシップへの参加を勧め、プログラムを締めくくった。

### 【第4回産学国際交流懇親会】

懇親会冒頭、発起人でもある千房株式会社 代表取締役の中井政嗣幹事より、本会立ち上げから今日に至る活動のプロセスとお集まりいただいた方々への感謝の意が示された。

続いて、学校法人エール学園 理事長 長谷川恵一監査役より乾杯（ソフトドリンク）の音頭をいただき、賑やかに宴が始まった。

今回の懇親会では、『大阪の食文化とソウルフードの紹介』、『外食産業の展望と外国人の積極的採用』をテーマに、会員企業の協賛により寿司・カレー・ワッフル・お好み焼きなどの食事が振る舞われた。

関西の外食産業界では、海外進出、外国人採用が積極的に推進されており、採用における課題解決について積極的な意見交換がなされていた。



合同企業説明会後ということもあり、乾杯直後の留学生はまだ緊張の面持ちだった。そんな中、スペシャルゲストとして、千日前道具屋筋公式キャラクターの『まい道くん』が登場し、会場を賑わせた。日本の現代的な文化である『ゆるキャラ』の登場に、留学生は笑顔で写真撮影を行っていた。企業の方々との会話のきっかけにもなったようだ。



留学生に大人気だった



千田代表幹事も笑顔で記念撮影

合同企業説明会では緊張した面持ちでブースを訪問していた留学生も、懇親会では肩の力を抜いて企業の方々とは笑顔で交流を楽しんでいる様子だった。また、他の学校に通う留学生同士の交流も見受けられた。企業の方々も、採用活動とは違う場で留学生と話すことができ、双方の活発な交流を行っていた。



今回参加された留学生にお話を伺い、以下のコメントをいただいた。

「合同企業説明会に参加するのは、この会が2回目です。これまで学んできたことや語学力を活かして日本で働きたいです。」

「今日は7、8つの企業ブースに行きました。面接が受けられるよう期待しています。」

「企業の方が、丁寧に説明してくださって、これからはがんばろうと思いました。」

#### 【入国管理局セミナーに関して】

「在留資格変更の手続きについて知れてよかったです。」

「配布資料やパワーポイント等の資料があると分かりやすかったと思います。」

「入国管理局の方の説明にも通訳がほしかったです。」

#### 【パネルディスカッションに関して】

「企業の方が留学生採用にとっても積極的、意欲的で留学生を良い人材として理解していると嬉しく思いました。」

「インターンシップの参加の重要性を知りました。」

また、英国屋のカレーを食べた留学生が、嬉しそうに「初めて！美味しいイギリス風のカレーを食べました。」と、日本語を学ぶ留学生ならではのコミカルな誤解エピソードも聞くことができた。



## 反省課題

- ・大学、学校によるアルバイトの推奨という協力が難しいため、1、2回生の参加が少なかった。
- ・11月の合同企業説明会開催については、夏までに内定がもらえなかった学生が多く参加するため、アルバイト求職者が少なかった。
- ・入国管理局セミナーは一方的な講話となったため、次回は事前に留学生から質問を集め、それに答えてもらう形式にしていきたい。
- ・多くの留学生が、企業に割り振られた番号を頼りに探している様子だったので、次回は各ブースに企業名だけでなく、番号も貼ることを検討している。

## プログラム催事録

- 名 称： 第一回『関西留学生合同企業説明会』 第四回『産学国際交流懇親会』
- 開催日時： 2017年11月18日（土）13：00～18：00
- 開催場所： 難波御堂筋ホール7階  
〒542-0076 大阪市中央区難波4-2-1 難波御堂筋ビルディング
- 主 催： 関西留学生国際交流支援連絡会（K-FIS）
- 協 賛： 千房株式会社、三和実業株式会社、大起水産株式会社
- 後 援： 大阪市、大阪商工会議所
- 参加者： 226名 以下内訳

カテゴリー	適 応	人 数
出展企業	説明会ブース 出展企業	72名
商店会関係	受益者を統括する団体・組合 など	6名
企業・法人関係	受益者となる企業・法人団体 など	16名
大学・学校法人関係	人材の供給窓口となる法人団体 など	11名
総領事館関係	総領事館関係者	0名
留学生	大学・領事館推薦の留学生 など	107名
行政・経済団体	市役所・商工会議所 など	7名
事業顧問	法政の立場からの意見者及び指導者	2（4）名
メディア	有益な公的情報提供者	3名
	合計	226名